

2 アンケート調査結果

～ 校長 ～

2 アンケート調査結果 ～校長～

(1)回収状況

表Ⅱ-2-① 調査対象とアンケート回収率（校長）

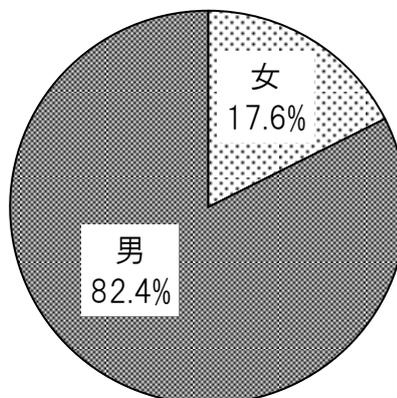
校種	学校数(校)	対象者数(人)	回答数(人)	回収率
小学校	378	377	364	96.6 %
中学校	165	162	152	93.8 %
高校	61	60	56	93.3 %
特別支援学校	15	14	14	100 %
県全体	619	613	586	95.6 %

※ 校長の兼務等により、学校数と調査対象人数が異なっている。

回答者についておたずねします。

(1)性別を教えてください。

回答者の性別(校長) n=586



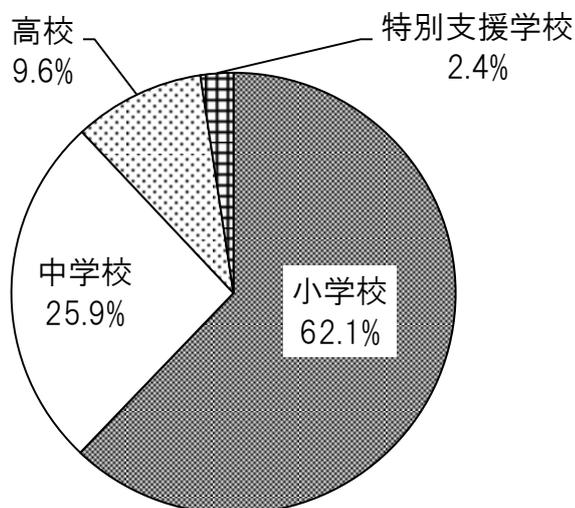
図Ⅱ-2-①

回答があった校長については、女性が17.6%、男性が82.4%となっている。

回答者についておたずねします。

(2)校種は何ですか。

回答者の校種(校長) n=586

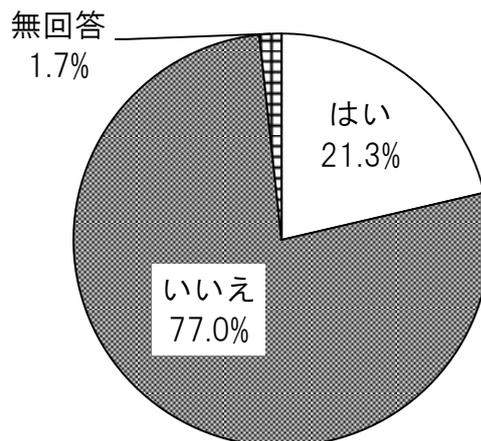


図Ⅱ-2-②

小学校62.1%、中学校25.9%、高校9.6%、特別支援学校2.4%となっている。

社会教育主事の資格をお持ちですか。

社会教育主事資格の有無(校長) n=586

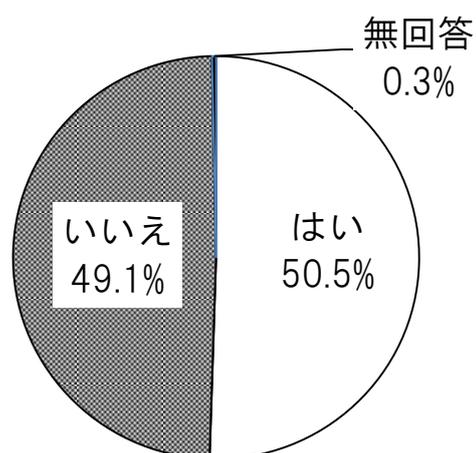


図Ⅱ-2-③

社会教育主事有資格者は全体の 21.3% になっている。

行政職の経験はありますか。

行政経験の有無(校長) n=586

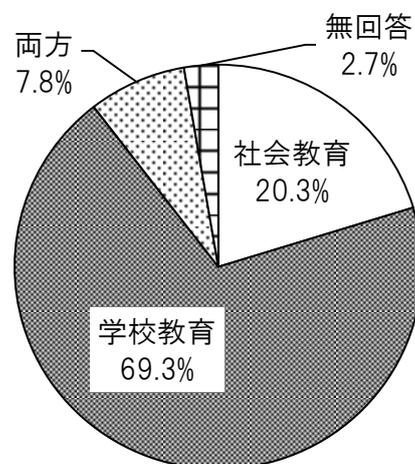


図Ⅱ-2-④

回答者のうち、「行政経験がある」が 50.5% で過半数を超えた。「行政経験がない」は 49.1% となっている。

行政経験ある回答者の職種(校長) n=296

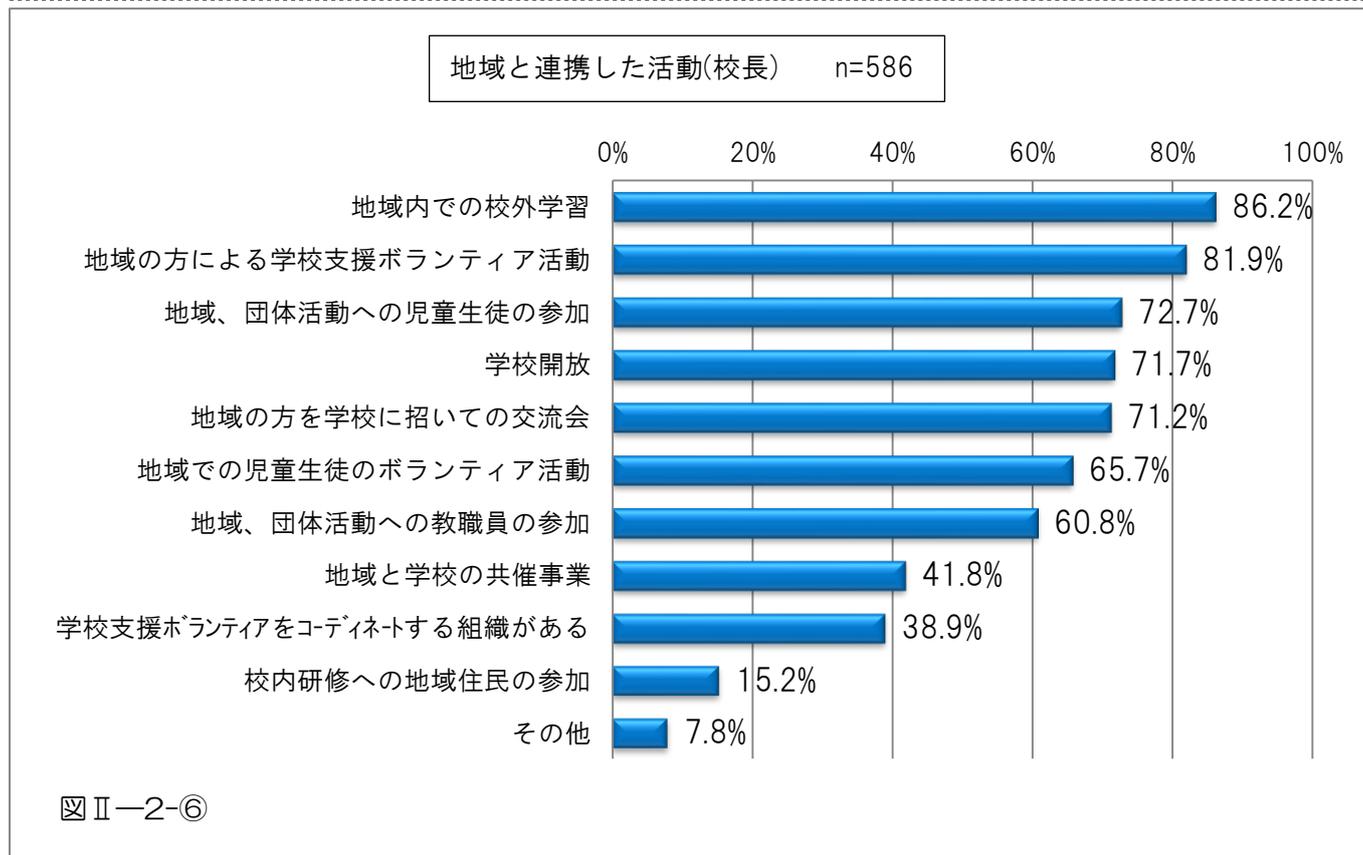
社会教育関係
(社会教育主事、副主幹、社会教育施設指導主事 等)
学校教育・学校管理関係
(指導主事、管理主事、副主幹 等)



図Ⅱ-2-⑤

行政経験があると答えた回答者の中で、社会教育関係の職種は 20.3%、学校教育関係の職種は 69.3%、両方の職種を経験した回答者は 7.8%、無回答 2.7% となっている。

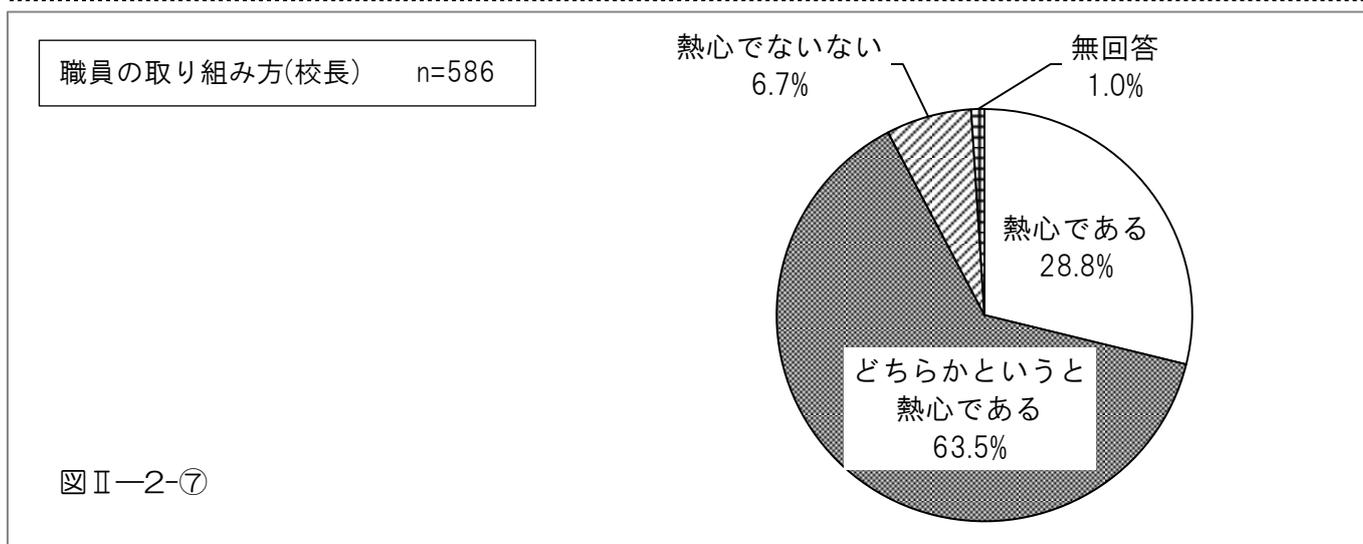
貴校では、次のような地域と連携した活動を行っていますか。当てはまるもの全てに○を付けてください。



回答が最も多かったのは「地域内での校外学習」で 86.2%、次いで「地域の方による学校支援ボランティア活動」で 81.9%である。「地域、団体活動への児童生徒の参加」「学校開放」「地域の方を学校に招いての交流会」の3項目については、全て 70%強でほとんど差が見られない。

(その他の記述については、P11~12 参照)

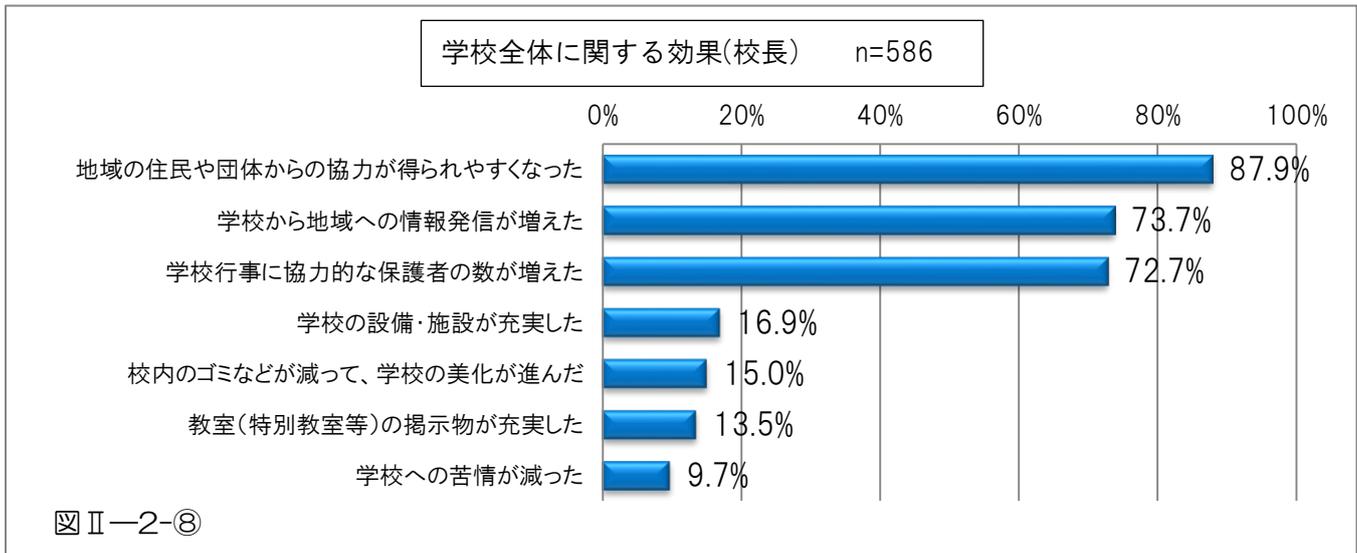
貴校の地域連携に際して、職員の取り組み方はいかがですか。



「熱心である」が 28.8%、「どちらかという熱心である」が 63.5%で、2つの回答を合わせると 90%以上となり、職員は熱心に取り組んでいることがわかる。

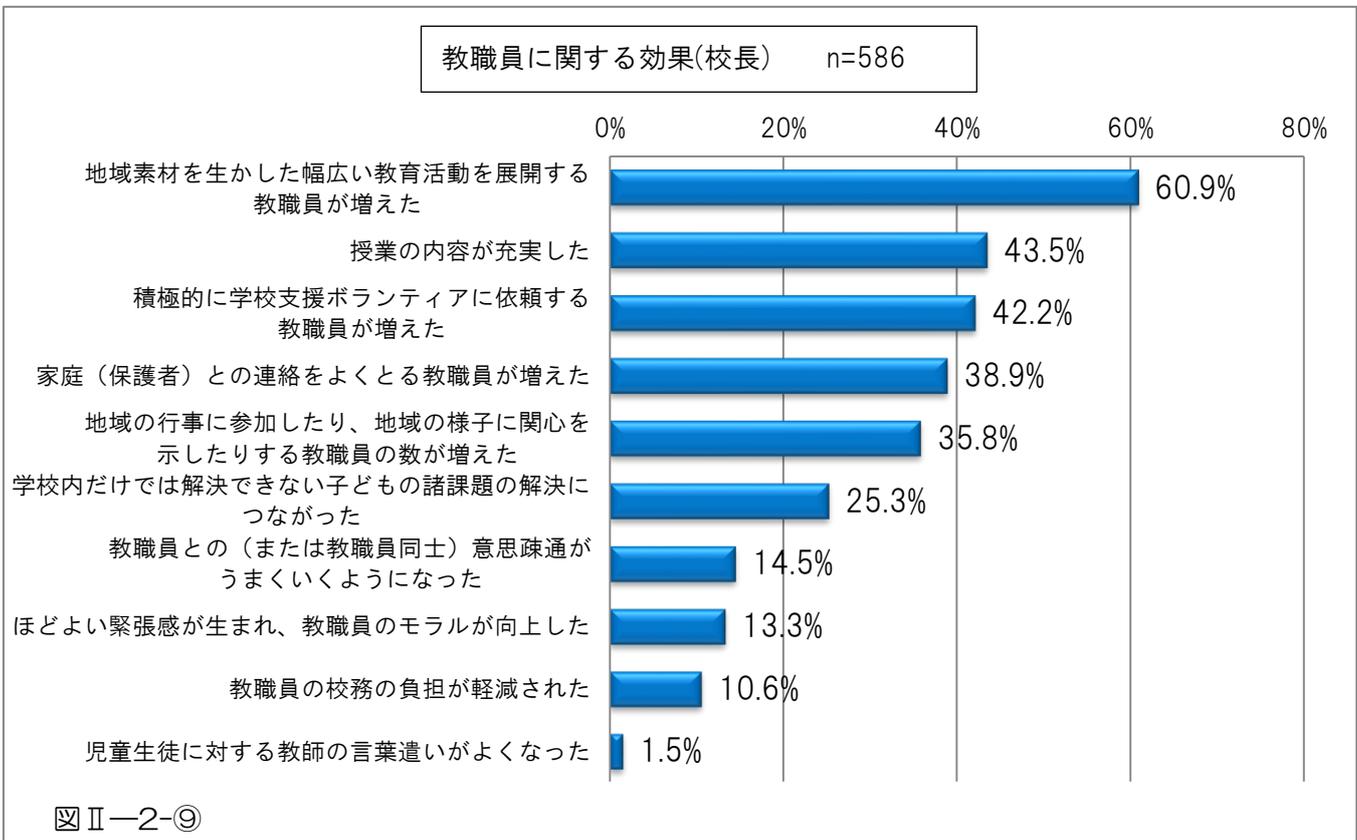
地域との連携活動により、学校経営にどのような効果があったと思いますか。次の①～⑳について、【学校全体】【教職員】【児童生徒】【地域社会】の 카테고리ごとに、もっとも当てはまると思われる項目3つに○を付けてください。

【学校全体】



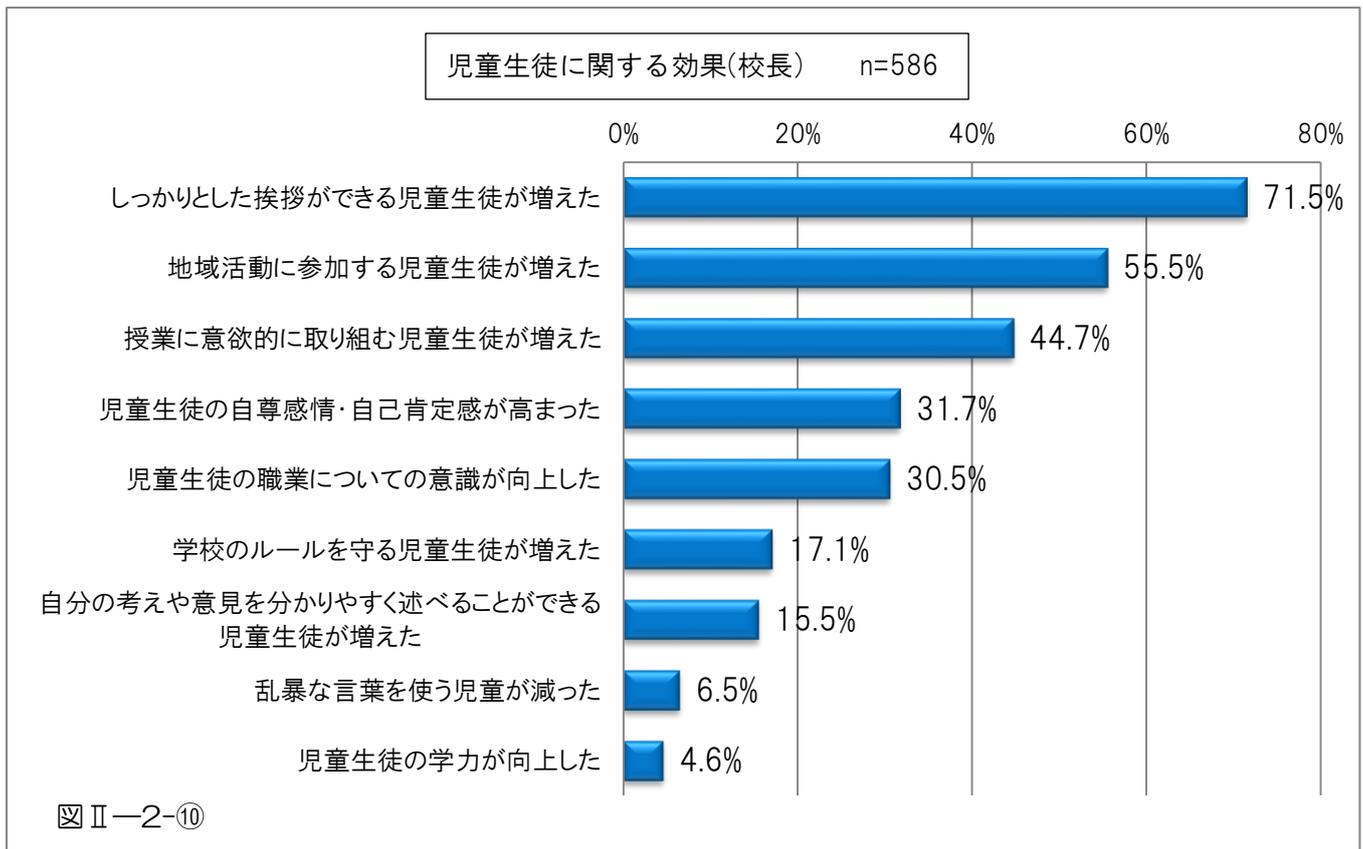
学校全体に関する効果があったと思われる活動について、「地域の住民や団体からの協力が得られやすくなった」が87.9%で最も高い値を示している。また、「学校から地域への情報発信が増えた」が73.7%、「学校行事に協力的な保護者の数が増えた」が72.7%である。これら3つの項目で高くなっている。

【教職員】



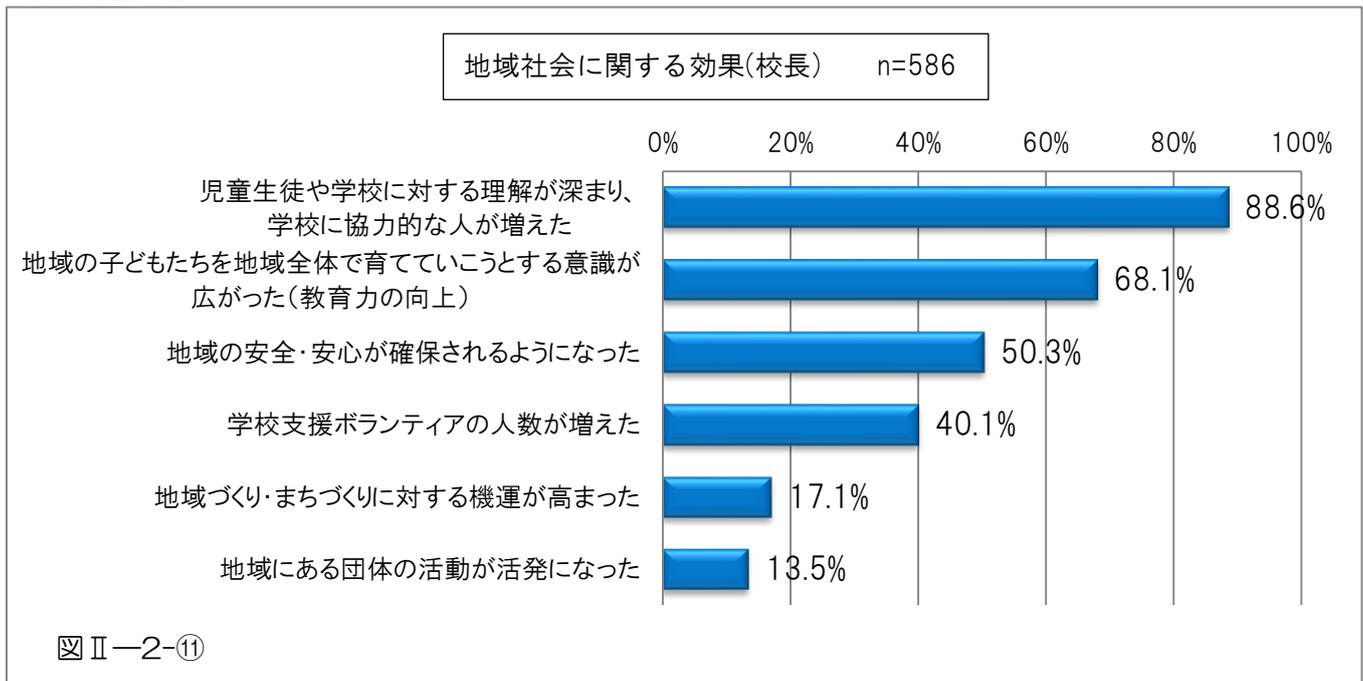
教職員に関する効果があったと思われる活動について、「地域素材を生かした幅広い教育活動を展開する教職員が増えた」が60.9%で、特に高い値を示している。

【児童生徒】



児童生徒に関する効果があったと思われる活動について、「しっかりとした挨拶ができる児童生徒が増えた」が71.5%で、最も高い割合を示している。次いで、「地域活動に参加する児童生徒が増えた」が55.5%で、これら2項目において、選択した回答者が過半数を超えている。

【地域社会】



地域社会に関する効果があったと思われる活動について、「児童生徒や学校に対する理解が深まり、学校に協力的な人が増えた」が88.6%、次いで「地域の子どもたちを地域全体で育てていこうとする意識が広がった」が68.1%で高い値を示している。

その他、地域連携が学校経営に与える効果について、お気づきのことがありましたら、自由にご記入ください。

◎学校全体

《学校運営・管理》

- ・地域に根ざした学校経営をより充実させることができた。学校・家庭・地域の三位一体となった教育活動の充実がより図られていたと思う。
- ・学校経営が活性化し、保護者・地域と協働体制で学校運営を行うことができる。
- ・学校が自信をもって教育活動に取り組める。地域連携は学校経営の大きな柱となっている。
- ・地域から支えられている学校というのは安定した経営ができる。
- ・学校教育の課題について、地域からの理解を得ることによって、教育施策推進にもプラスになる。
- ・学校は地域社会の拠点となる場所なので、地域全体で学校教育を考えるきっかけをつくる地域連携の視点は学校管理上重要である。円滑な学校経営の一助となっている。
- ・保護者や地域住民の力を学校運営に生かす「地域とともにある学校づくり」により、子どもが抱える問題を地域ぐるみで解決するしくみづくりや質の高い学校教育の実現を図るために有効である。
- ・学校は地域の中にあり、地域の一部である。地域の協力なくして、学校経営は成り立たない。
- ・地域連携は教育目標を具現化するうえで、欠かすことのできない大きな柱である。
- ・地域の人々の学校への思いを知る機会が得られるという効果は大きい。
- ・今後の学校のあり方を考える上での1つの指標となった。

《信頼・協力》

- ・学校や児童生徒の現状について地域の理解を得ることができ、学校への信頼や協力体制が深まる。
- ・学校と地域の相互理解が進み、地域の学校に対する理解が深まるとともに、学校に対する期待度が高まった。
- ・地域の方々は学校のために何か協力したいと思っていることが分かった。積極的に呼びかけることにより、学校教育の充実につながっていると思った。
- ・学校支援ボランティアの協力数などから信頼される学校づくりの視覚化ができた。
- ・いじめや不登校等がない学校づくりを行うためには、保護者以外に地域の方々の支援が必要である。地域に開かれた学校づくりを行うために、地域との連携を積極的に行う必要がある。
- ・地域のネットワークを使つての教育資源、情報が入りやすくなった。

◎教職員

《意識・考え方》

- ・教職員のモチベーションの高揚につながった。
- ・児童生徒だけでなく教職員も地域の一員であるという意識が高まる。
- ・教職員の地域理解が進み、教職員の意識の変容につながった。
- ・教職員に与える影響が効果的に働くと感じられる。
- ・学校運営上の発想の転換が教職員一人一人に求められることとなり、結果的により柔軟な教育活動につながる。
- ・事前の打ち合わせを密に行うことを通して、ボランティアの生き方や考え方から教員が多くの学びを得た。

《校務》

- ・教育活動への支援や教育資源の提供によって授業を補い、授業が広がりを見せた。教職員の知識や技能をカバーし、教員では教えられない専門的な知識や技能を児童生徒に伝えられる。
- ・学校、教職員の負担軽減、できないことが可能になる。

◎児童生徒

《学力等》

- ・子どもの教育に多くの人々が関わることによって、学力向上や人間関係力を高める効果が期待できる。
- ・経験不足と言われる子どもたちにとって、地域の教育力を学校に効率的に活用することは、有意義である。

《社会性》

- ・将来のまちづくりの中心となる児童生徒の地域活動の意識が高まった。
- ・地域を大切にする子ども、学校を大切にする子どもが増加した。
- ・生徒の活動の場(ボランティア活動)が増えた。地域において生徒たちが活動できる機会が増えてきたので、自分の住んでいる地域に貢献できる体験、充実感を生徒が味わうことができるようになってきた。
- ・限られた狭い範囲の人間関係しかない家庭が増えてきた中、多様な大人と接することで、人との関わり方を学ぶ機会となる。
- ・地域社会の一員になるという意識の向上。児童生徒の社会性の涵養につながる。
- ・学校が地域によって見守られている意識が学校全体にできてくるので、生徒に落ち着きが出てくると感じる。
- ・地域連携を積極的に行うことで、生徒が様々な体験を行うことができる。多くの体験を通して、グローバル社会に対応できる人材を育成することができるのではないかと思う。

《人間性》

- ・地域での活躍の場、老人・福祉施設の交流を通して、子どもの心(人間形成、豊かな心の醸成)が育った。
- ・児童の人間性の成長が図られる。
- ・地域への愛着が生まれ、このことが地域愛、郷土愛へとつながっていく。このことは家族愛、学校愛、ひいては友情(人とのコミュニケーション)にもつながると考える。
- ・様々な年齢の方々や立場の違う方々と接し、多くの大人に認められたり、励まされたりすることで、児童生徒の自尊感情や意欲が高まる。

◎地域社会

《意識》

- ・地域で子どもを育てる意識(地域や学校のために)が高まり、学校教育活動の充実につながると考える。
- ・地域・保護者は、学校教育活動を支える最大のパートナーであるとの意識に高まりが見られている。
- ・地域が学校の応援団となった。
- ・地域の人々に、学校とは支えられて存在しているという意識が広まった。
- ・地域で子どもを育てるという意識が強くなり、防犯や防災といった観点からも効果的である。

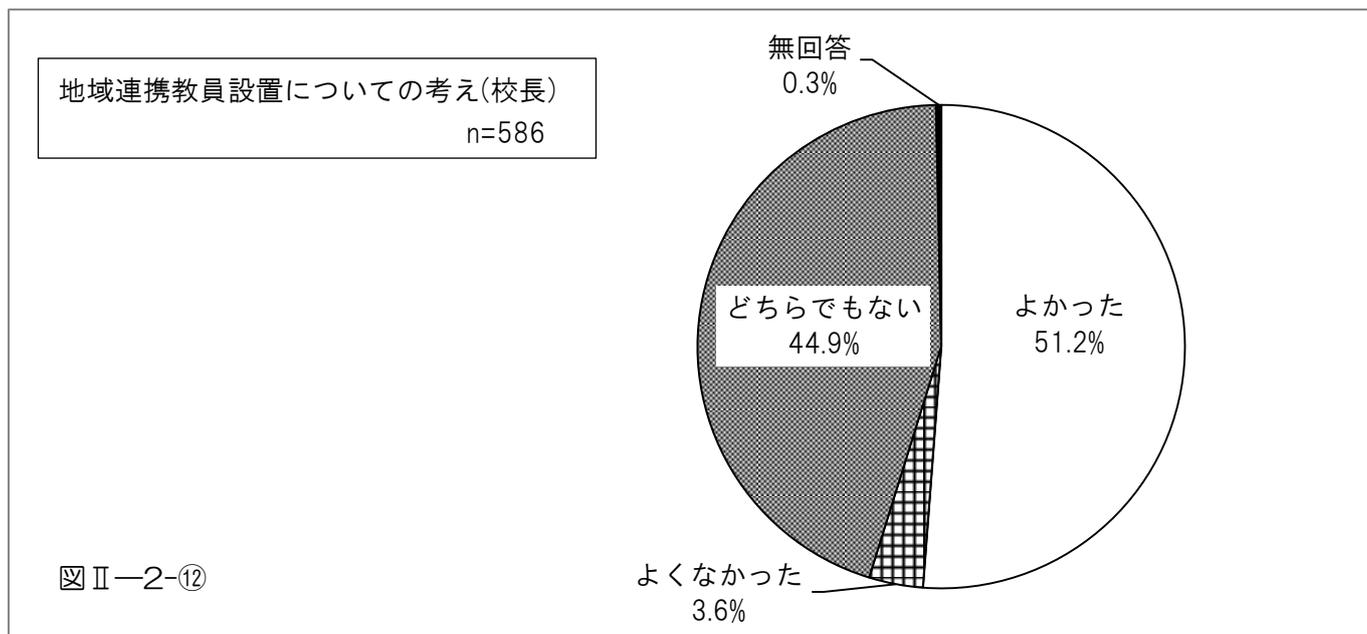
《理解》

- ・学校理解がより一層進み、相乗効果を生み出しているように感じる。
- ・子どもたちを地域で指導してくれることが多くなり、学校経営の柱をそのまま地域にまで下ろすことができている。
- ・地域も児童生徒のエネルギーや笑顔を頼りにしてくれ、学校の活動を応援してくれる雰囲気が強くなった。
- ・特別支援教育や障害児者に対する理解が深まった。

《その他》

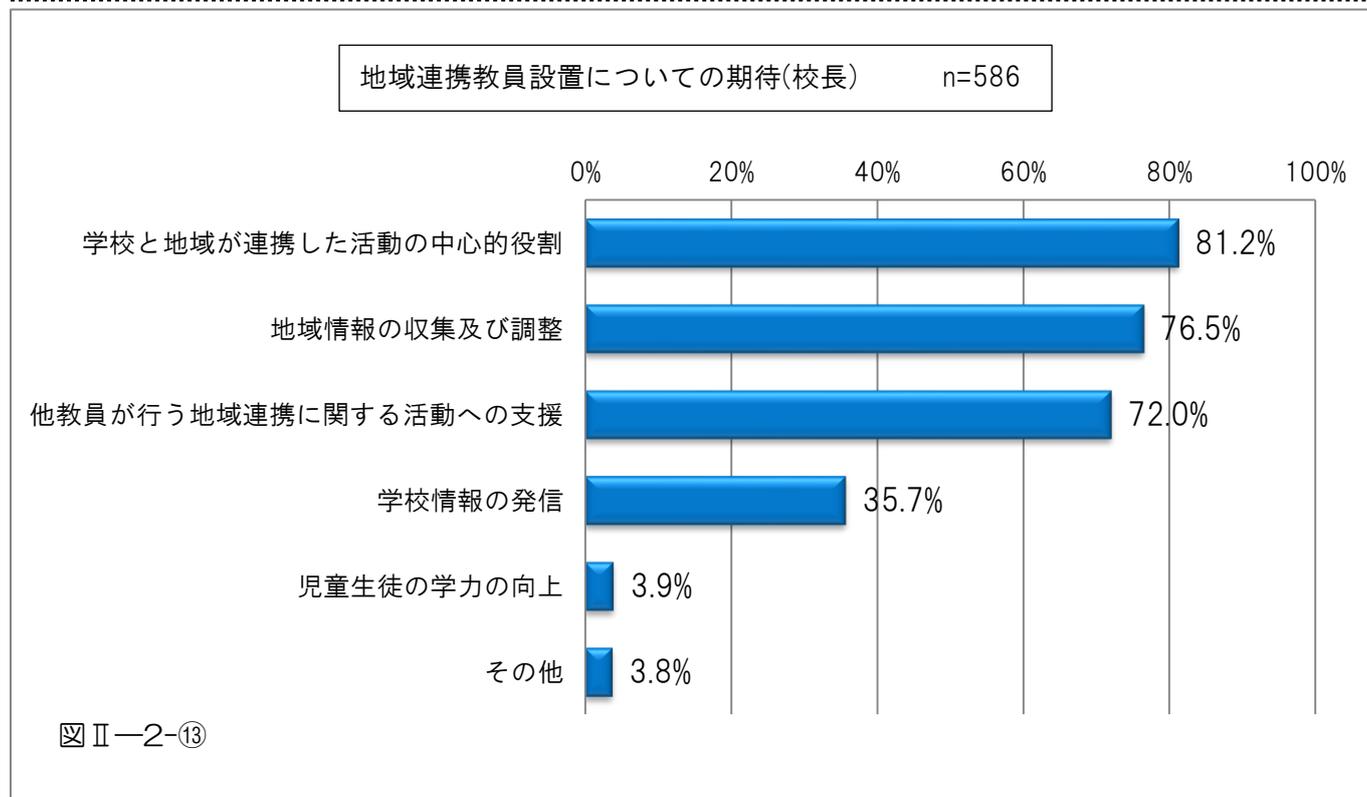
- ・学校と地域、そして、関係機関を含めての連携協力によって、それぞれの持つ情報と課題を共有するとともに、課題解決に向けてお互いの資源を有効に活用し、学校ばかりでなく地域の特色化と活性化の推進が期待できる。
- ・生涯につながる支援者養成につながる。

学校経営上、地域連携教員の制度について、どのように考えますか。



「よかった」という回答が51.2%で、過半数を超えている。「よくなかった」が3.6%、「どちらでもない」という回答が44.9%となっている。(理由記述については、P17 参照)

地域連携教員にどんなことを期待していますか。当てはまるもの3つまで○を付けてください。



地域連携教員設置に対する期待については、「学校と地域が連携した活動の中心的役割」が81.2%、次いで「地域情報の収集及び調整」が76.5%、「他教員が行う地域連携に関する活動への支援」が72.0%で、これら3項目において、高い値を示している。(その他の記述については、P18 参照)